



特定非営利活動法人フードバンクとくしま

～2022年1月～



年頭のご挨拶

フードバンクとくしま理事長 清田 麻利子



新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のご祝辞を申し上げます。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は終息を見るかに思われましたが、新たな変異株の発生で先が見えないこととなり、新たな年への課題を持ち越すことになりました。

さて、私たちの暮らしには、一部の富裕層以外、近年の政府・日銀の経済政策の恩恵は及んでいません。それどころか、地球温暖化の影響とみられる大型台風や豪雨などによる大規模災害が深刻な事態をもたらしています。また、注意すべきは所得格差を始め、様々な格差問題の広がり「子どもの貧困」として現れ、学力や体力、さらには進学などにおいて劣位になりがちで、将来的に貧困が再生産される懸念があり、子どもの人権にかかわる重大な問題だと危惧しております。

フードバンクやこども食堂の広がり背景には、そうした実態があります。

政権の言う「自助・共助・公助」には限界があります。

2022年の運動は、コロナ禍の中での活動ではありますが「誰もが当たり前に心配なくお腹いっぱいになれる様」、精一杯頑張る覚悟です。会員の皆様のますますのご協力をお願い申し上げます。

消費者庁審議官 見学

12月7日、消費者庁から村井正親政策立案総括審議官が見学に来られました。理事長と事務局長からフードバンクとくしまの活動について説明をさせていただきました。

賞味期限や消費期限の問題についても話し合いました。



トラックラッピング絵 表彰式

12月11日、「食品ロスをみんなで考えよう」をテーマにした児童画のお披露目を兼ねた表彰式を行いました。入賞作品がラッピングされたトラックが入場してくる場面は、かっこよかったです。表彰式の様子は、四国放送のニュースで放映されました。徳島新聞にも記事が載りました。



可愛いお客さま！



12月22日、宮井小学校5年生の子どもたちが、自分たちで育てたお米を困っている人のために使ってほしいと、事務所まで届けてくれました。久しぶりに清らかなものに接した気がします。子どもはそこにいるだけで周囲を明るくしてくれますね。ありがとうございました。

かっこいいお客さま！



12月23日、阿波銀行の板東克浩執行役員経営統括部長とSDGs推進室の方が、県内の全支店で職員さんがフードドライブを行い、集めた食品を越年支援に役立ててくださいとお持ちくださいました。越年支援で提供させていただきました。ありがとうございました。

第9回 生活困窮者越年支援

12月29日(水)、30日(木)、第9回生活困窮者越年支援を実施しました。

今回は、コロナ感染拡大を防ぐため、支援を希望する人は事前の予約制とし、申し込みをされた方にこちらから日時を指定した整理券を郵送し、当日は、整理券を持っている方が支援物資を受け取れることにさせていただきました。申し込み数は、社会福祉協議会などの支援団体を通して予約された方が360名、フードバンクとくしまへ直接申し込まれた方が約340名。合計約700名の方が申し込まれ、支援を行うことができました。その中から2名の方が深刻な状況にあることが判明し、生活相談に来ていただいていた徳島市社会福祉協議会の相談員の方におつなぎし、継続した支援ができることになりました。

支援物資を提供して下さった企業、団体、個人の方は、約100名(団体)にのぼりました。全てご紹介できないのが残念ですが、多くの方が困っている方の役に立ててほしいという気持ちをお持ちなのだと感じました。準備作業や当日の運営に参加して下さったボランティアさんも、延150名ほどになりました。熱心に効率よく労を惜みず動いて下さり、頭が下がる思いでした。

数えきれない方々が善意から協力して下さり、第9回生活困窮者越年支援を無事に終えることができました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

